

## 令和3年度第3回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日 時 令和3年6月23日(水) 14時00分～16時10分  
場 所 S-Port 3階 大会議室  
出席者 赤塚、出野、岩崎、大須賀、栗村、榊(Web参加)、鳥居、野田(Web参加)、  
細井(Web参加)の各委員  
日詰、塩尻、川田、森田、大場、川村、片田、池田、本橋の各委員  
欠席者 晝馬委員  
陪席者 高倉、金原、近藤の各副学長、鈴木、河島の各監事、井柳、栗井、下村の学長  
補佐

### I 前回議事録の承認について

令和3年度第1回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録(案)及び令和3年度第2回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録(案)、を原案どおり承認した。

また、議長から、第1回及び第2回本会議において学外委員からいただいたご意見の紹介があり、今後の対応に活かしていきたいとの発言があった。

### II 審議事項

#### 1 静岡大学の将来構想(新法人設立・大学再編、新学部構想)について

議長から、静岡大学の将来構想(新法人設立・大学再編、新学部構想)について、令和2年度以降の新法人設立・大学再編に向けた各会議開催状況(資料1-1)、第30回連携協議会(資料1-2)、第29回法人運営検討専門委員会議事要旨(資料1-3)、第19回浜松地区の大学運営検討専門委員会議事要旨(案)(資料1-4)、国立大学改革強化推進補助金関係(資料1-5)、新学部設置に向けた検討状況(資料1-5)の報告があり、意見交換を行った。

(委員から出された主な意見等)

榊委員：静岡と浜松がそれぞれ先鋭的になるということはもちろん重要であるが、一法人で繋がるために、その一つ一つではできないことができるということが大事であると思っており、その試みがいくつか議論されている。その中の一つにリベラルアーツのしっかりした教育と専門教育とをきちんと両立させるような教育が欧米の一流大学の一つのスタンダードな形になっている。静岡は中規模ながら浜松と合わさればそれに対応できるような人員がいる。旧制静岡高校の伝統を受け継ぎ、そういう切り口で議論されることを期待しているが現状はいかがか。

議長：静岡・浜松の両WGにおいて、静岡大学の今後のリベラルアーツの在り方について検討を行っており、教養教育を大学としてどう受け止めるかということを考える時期にきている。日本の大学でもリベラルアーツを取り入れて非常に成功した大学もあり、学士課程であれば1、2年生という基礎的な時期に限らず、4年間かけてリベラルアーツを完成させていき、専門教育と接合させていくという考え方が必要である。両WGの構想案をまとめていくにあたり、併

せて本学における今後のリベラルアーツの在り方について議論していきたい。

榊委員：リベラルアーツを本格的に行うには相当な人数をかける必要がある。静岡半分、浜松半分という体制でできることと、リモート教育を含めて連携してできることは違うと考えている。MITのような工科系の大学でも相当リベラルアーツのしっかりとした布陣で臨んでおり、他の大学も徐々にそういう方向に進んでいる。静岡は今までの長い伝統の中にそういう芽を持っていながら、今回のものがその流れで弱体化してはもったいないという気がしている。リベラルアーツの議論は永遠に続くと思知しているが、学長のように人文系に通じておられる立場から、医学系、工学系の方と対話をしていただきたい。

## 2 大学運営会議設置に伴う学則及び関係規則の一部改正等について

議長から、大学運営会議設置に伴う学則及び関係規則の一部改正等について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

## 3 令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

金原副学長から、令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(委員から出された主な意見等)

岩崎委員：スチューデント・アンバサダープログラムはどのような取り組みか。

金原委員：国際連携推進機構が主催した事業で、学内で参加者（日本人学生・留学生）を募集し、少人数のチームに分かれて、「自分たちの思いを込めたSDGs」をテーマに世界に目を向ける・国際的な視野を持つきっかけを作る活動である。

榊委員：グローバル化の推進に向けた取組について、学生の参加率はどの程度か。短期留学プログラムやスチューデント・アンバサダープログラムの参加者はどのくらいか。

金原委員：アンバサダープログラムには20名が参加したと聞いており、全学的に見れば非常に少人数であった。また、平成29年から令和元年の4年間で315名が留学しており、毎年80名程度が長期・短期の留学をしているが、昨年度は新型コロナウイルスの影響があった。（静岡大学概要2021、27ページ参照）

榊委員：今回の件は少人数でスタートしたということであるが、少なくとも10～20%の学生が参加することによって大学のグローバル化に繋がるので、そういう視点をもって今後も尽力いただきたい。

## 4 第4期中期目標・中期計画（素案）について

森田委員から、第4期中期目標・中期計画（素案）について、資料4により進捗状況と今後のスケジュールについて説明があり、審議の結果、現段階の案を承認し、その後の修正は学長に一任することを確認した。

(委員から出された主な意見等)

野田委員：中期計画の評価指標はどのように設定されているのか。またその妥当性については、文部科学省からアドバイスがあるのか。

森田委員：評価指標は、定性的と定量的なものがあり、定量的に数字を掲げた場

合、これまでの成果とこれからの6年間の妥当な数字を担当理事等が設定し、検討を進めている。定性的な表現の評価指標を設定することになる場合でも、第三者が検証可能な分かりやすいものにするようにという指示があるため、そのように対応していきたい。文部科学省からは他大学と比較した際、問い合わせはあるかと思うが、スタート時が各大学とも違うので、担当から出てきた根拠を示しながら説明していきたい。

野田委員：定性しかないもの、定量しかないものがあると思うが、それを分かりやすくする方が評価もしやすいのではないかと思う。

森田委員：目標・計画の性質を見極めながら判断していきたい。

赤塚委員：浜松医科大学との統合・再編について、第4期間中に行われるのかわからないが、検討を進めているということをどのように表現するのか。

森田委員：今回は記述しないことにした。状況が変わる場合は、適宜文部科学省に相談し、新たな計画を策定したり、既存の計画に加筆・修正し対応していきたい。

## 5 機関別認証評価における自己評価書について

金原副学長から、機関別認証評価における自己評価書について、資料5により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、本会議以降に修正の必要があった場合は、学長に一任することを確認した。

## 6 令和2年度決算について

片田委員から、令和2年度決算について、資料6により提案があり、審議の結果、これを承認した。

(委員から出された主な意見等)

榊委員：全体の予算200億円における学部・研究科以外の大学全体の部分について、補足説明をお願いしたい。

片田委員：学部・研究科以外については、「その他の共同利用施設等」に入っている。

榊委員：2大学が一法人となった場合、セグメンテーションの問題と全体の区分けについての検討が必要になってくるため、その際にはまた教えていただきたい。

野田委員：未払金の人件費は何か。また、その他諸経費等にかかる未払金について教えていただきたい。

片田委員：実績に基づき支給される時間外労働手当等は月末に締めて翌月に支払っているため、未払い金となった。また、業者から正式な請求書が届いてから1ヶ月以内に支払いをするが、本学では月に1回のみ支払いをすることによって効率化を図っている。

岩崎委員：余剰金について、文部科学省から返金を求められることはないのか。また、次年度の配分で下げられることはないのか。

片田委員：基本的な予算を配分した、自己収入が増えた、支出が減ったという自己努力ということで目的積立金としてほとんどは認められている。目的積立金と関連付けて次年度予算を削ることもない。

### Ⅲ 報告事項

#### 1 令和2年度卒業・修了者の進路状況について

池田委員から、令和2年度卒業・修了者の進路状況（5月1日現在）について、資料7により報告があった。

（委員から出された主な意見等）

榊委員：修士課程修了者の進路状況について、博士課程への進学者が多くはないが、大学が研究機関として活躍していくためには何か手を打たなければならないと思っている。今後、一法人2大学となっていく場合、改善すべき目標の一つであると思うが、学長はどのようにお考えなのか。

議長：ご指摘のように、理系では修士課程への進学者は多いが、修士課程から博士課程へ進学する学生は多くない。修士から博士へのスムーズな進学、また、学部－修士－博士への接続への取り組みが必要であり、検討を始めたところである。

榊委員：人材育成について、大学を挙げて尽力いただきたい。

野田委員：新型コロナウイルスの影響が大きいと感じている。企業側の理由で内定を取り消されるケースはあったのか。

池田委員：1件あったが、内定取り消しの企業から別の企業を紹介いただき、その会社に就職した。

野田委員：思うように就職活動ができない状況が続いている。また、Webを使用した面接は採用する側でも難しい面がある。学生のモチベーションが下がらないような対策を検討いただきたい。

池田委員：本学に寄せられる求人数としては、昨年度よりは減少しているが一昨年度よりはよい状況である。これから悪化してくる可能性もあるが、学生が希望する就職支援の方法をとっていきたい。

#### 2 令和2年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について

森田委員から、令和2年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について、資料9により報告があった。

#### 3 新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について

議長から、新型コロナウイルス感染症に関し、学生の危機意識を高め、感染防止をより一層進めるため、地域創造学環アート&マネジメントコース3年生3名に「黙食」啓発ポスター（資料10）を制作いただき、静岡・浜松キャンパスの学食、学生寮の食堂に掲示したこと、学生や教職員を対象としたワクチンの大学拠点接種（職域接種）について、検討を進めているとの報告があった。

（委員から出された主な意見等）

出野委員：県内の大学でも学生同士の会食などによるクラスターが発生している。学校では感染対策がしっかり行われているが、若者の感染者が多い中、学生が

自宅アパートでも黙食を行うなど、学外での感染対策の徹底についてもお願いしたい。

議長：出来る限りの対応を行いたい。

#### IV その他

##### 1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料により紹介があった。

以上